

森を守ることは、水を守ること

私たちが生活する上で欠かせない水。その水は森と密接な関係にあります。

森は『緑のダム』と呼ばれるように、自然の中で重要な役割を担っています。しかし近年、森は荒れ、『緑のダム』

としての機能が失われつつあります。そこで、森の役割を知っていただき、私たちの身近な水道水の水源を通して、

森を守るために何が必要かを考えてみましょう。



▲日本有数の貯水量を誇る早明浦ダム。「四国のいのち」とも呼ばれています。



▲塩江町にある内場ダム。市民の憩いの場としても慕われています。



森の現状

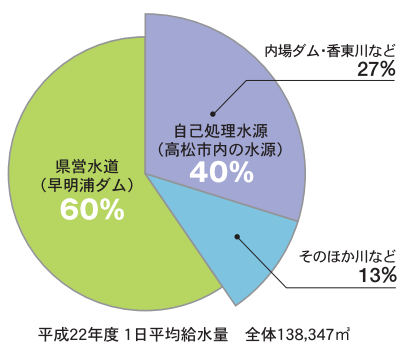
水道水の水源はどこ？

蛇口をひねれば、簡単に手に入れることができる水道水。それは、深い渓谷の水源の森から恩恵を受けて得られています。

Save the water source forest

高松市の水道水は、香東川や春日川、新川などのさまざまな水でつくられています。そのほとんどが早明浦ダムと内場ダムを水源としています。

1日の平均給水量に対する水源の割合



水源の森は大丈夫！？

今、早明浦ダムと内場ダム周辺の

森に異変が起っています。

早明浦ダム周辺の嶺北地域では、過疎や高齢化、国産材価格の低迷などによる影響で、森と共に生きる人が減り、森は荒れつつあります。そのため、ダム湖への土砂や樹木の流入、濁水の発生などが問題となっています。

また、内場ダム上流では、人工林面積592.96haのうち、手入れを必要とする人工林が47%あります。しかし、そのうち4分の1程度しか手入れができておらず、残りは放置林になる可能性があります。

国有林や公有林については、国・県市により森林整備が行われていますが、私有林については十分な管理ができず放置されることが多くなっています。

